

〈特集〉

植物のあるおうち時間

今年は、いつもよりもおうちで過ごす時間が長くなっている方が多いかと思います。

でも家に籠りすぎると、なんとなく気分が憂鬱で沈みがちに。

そんな時こそ、植物の生き生きとしたパワーに触れてリフレッシュしましょう。

暖かく陽気も良い5月は、ガーデニングを楽しむのに最適な季節です。

新しく花を植えるのも良いですし、既存の花壇や鉢を夏の苗へ交換する時期でもあります。

また、庭に植えた木々には若葉の緑色が美しく重なり、中には花が咲いているものも。

形状をきれいに保ち風通しを良くするため、剪定にもチャレンジしてみましょう。

花壇や鉢から切った花や剪定した枝、捨てるのはちょっと待って！

庭に咲いていた花や枝をインテリアに取り入れて、おうちの中でも楽しんでみませんか？

お部屋に花やグリーンがあると、華やかさが加わって一気に晴れやかな雰囲気。

今回は、花や枝を住まいに飾るコツと長持ちさせるアイデアをご紹介します。

撮影 磯畑 弘樹 Hiroki Isohata

文 中西 理恵 Rie Nakanishi

Greenery
at home

木の剪定をやってみよう!

木は伸びすぎると採光性が悪くなり、下に生えている植物の生育が悪くなってしまいます。
また、道路や駐車場、お隣の敷地に枝が伸びて迷惑をかけてしまうことも。
美しく健康的な樹形を保つためにも、剪定をやってみましょう。



③ 樹幹付近から伸びた「ふところ枝」は、害虫の温床となることもあるので、付け根から剪定する必要があります。



② 幹の方向に向かって伸びた枝を「逆さ枝」といいます。これを根元から切ります。



① まず枯れ枝を切ってしまいましょう。



④ 幹がしなる樹木の場合、高くして切りにくいところの枝は、手前に倒して剪定しましょう。



⑤ 樹形を整えるように、枝葉を剪定します。



⑥ 空が見えるようになりました。



剪定時期は樹木によって異なります。一般的に常緑樹は5～6月と9～10月、落葉樹は7～8月と11～3月、花木は秋から春または花が咲いた後が良いとされています。

〈剪定の基本〉

- ① まず枯れ枝や病虫害に侵された枝、生育上不要な枝を取り除きます。
- ② 次に通風や採光などの障害になる枝、最後に樹形を整える枝葉を取り除きます。

- 頂枝(シン)は一つにする。過みすぎた枝を切除する。
- 枯れ枝や、病虫害に侵された枝、からみ枝、逆さ枝、ふところ枝などを切って通風や日当たりを良くする。
- 樹木の幹や枝から真上に向かって精力的に伸びる枝を徒長枝という。その徒長枝や、扇吹き枝、ヤゴなどは樹勢を衰弱させるので切る。
- 同じ方向に伸びる上下2本の枝となる平行枝は、バランスを考えてどちらかを切除する。また、一ヶ所から四方に伸びる車枝は整理する。

樹木全体としては、枝を同一方向にばかり向けないこと、また毎年、枝の同じ位置で切らないこと。そして、強い枝は短く、弱い枝は長く残すことが基本です。 【参考/一般財団法人 日本緑化センター】

♪ 剪定、というと難しそう!と身構えてしまいますが、インテリアに飾るための枝を数本採る、くらいのイメージで始めてみてはいかがでしょうか。

剪定を行う際は、軍手とできればゴーグルを着用して安全面に気をつけましょう。また、虫刺され予防も忘れずに。

インテリアにも使える! 飾っておしゃれな庭木・草花

ダイナミックに飾ることができて、切り花よりも長持ちすることから、インテリアグリーンとして人気の「枝もの」。フラワーベースに生けるので、重い鉢植えの観葉植物とは違って移動させるのも簡単。好きなところに飾って楽しめます。

そんな「枝もの」は、お花屋さんで購入するのも良いですが、庭から採借できたら良いですね。
そもそも、せっかく植えた庭木を庭だけで觀賞するのはもったいない!
家を建てたら、庭の植栽選びに迷うことも多いかと思います。
♪ 家の内と外で2倍楽しむための植栽。そんな庭木の選び方をしても良いのではないのでしょうか?
花が咲いている時期だけでなく、葉や枝のみずみずしさをインテリアに取り入れてみましょう。



◎ ツバキ
枝も葉も花も美しく、一本でも植になります。葉は、料理のあらいにも。



◎ ドウダンツツジ
枝もの人気No.1。枝ぶりがよく、インテリアによく馴染みます。



◎ ヒメシャラ
幹や枝も細く繊細。6～7月ツバキとよく似た形状の花が咲きます。



◎ エゴノキ
5～6月、たくさんの白く香りの良い花を咲かせます。



◎ シャラ
初夏に白い花をつけます。爽やかなグリーン色の枝ものとして人気です。



◎ イロハモミジ
和の空間づくりにぴったり。新緑と紅葉の両方が楽しめます。



◎ コデマリ
ちいさな白い花とグリーンのコントラストが美しい樹木です。



◎ アセビ
濃い緑色の葉っぱが、ナチュラルなインテリアにぴったりです。



◎ アジサイ
庭木としても切花としても人気のアジサイ。季節感のある花あらいを楽しめます。



◎ ユキヤナギ
春を感じさせる小さく可憐な花が特徴です。



◎ ソヨゴ
10～11月ごろに赤い実をつけ、クリスマスのお祝い飾りに飾れます。



◎ スズラン
鈴のような可憐な花が特徴。シンプルに飾るだけでインテリアのアクセントになります。



◎ ユーカリ ◎ ミモザ ◎ コニファーなどの針葉樹
剪定後、新芽や柔らかい葉を取り除き、根元を束ねて風通しがよく乾燥したところに吊るしておく、枝ぶりを生かしたダイナミックなスワッグに仕上がります。



◎ キキョウ
美しい紫色の花を毎年楽しめます。



◎ カワラナデシコ
育てやすく晩春から秋まで花が咲き続けるので、花壇に賑わいを添えてくれます。



◎ スズラン
鈴のような可憐な花が特徴。シンプルに飾るだけでインテリアのアクセントになります。

植える時の注意点 外来種と在来種を一揃に植えると、外来種に負けてしまうことがあるので、例えば在来種は玄関アプローチ、外来種は裏庭などというように場所を分けて植えるか、鉢植えにしましょう。香りや花粉でアレルギーが出る人がいるキンモクセイや、単木*だと家よりも大きくなることもあるシマトネリコには注意が必要です。 ※単木…木の幹が根元から上部まで1本になっている樹形



コデマリなど茎が固い枝物は、下から5cmくらいの皮をナイフで削っておくと、水が通がりやすくなります。



コデマリの枝をどっしりとした大きめの花瓶に生けました。ざっくりと無造作に飾っても雰囲気が出るのが枝ものの良いところです。



飾っていて、元気がなくなってきたな...と思ったら水切りからやり直しましょう。短くなった分、器や飾る場所を変えて長く楽しめます。水替えはこまめにしましょう。



〈教えてくれた人〉
ヤマサハウススタッフ 坂元 明日さん
いけばな小原流で勉強中です！

生命力溢れる フレッシュグリーンをインテリアに！

良い枝が手に入ったら、早速飾ってみましょう。

生けてみよう！

切花よりも格段にお手入れの手間がかからない枝ものですが、より瑞々しさを長持ちさせるためのコツがあります。枝ものは、お花よりも長さや重さがあるので安全に飾るために安定感のある器を選びましょう。あらかじめ花器を綺麗に洗っておくことが、水質保持のために重要です。



① バランスをみて、要らない葉や枝をカットします。



② 深水をしない。深い花器に生ける場合、水に浸かっている部分が多すぎない方が長持ちします。



③ 水揚げ

縦に十字の切れ込みを入れます。細い枝は縦に一字に切るだけでも十分です。水に触れる面積を増やして吸い上げやすくします。切り込みを入れられない細い枝などは、切り口を金網などで割ってほぐします。



④ 水切り

まず器を決めましょう。生ける花器の高さに合わせて、水に浸かる部分の葉を取り除きます。枝の先端を水に浸け、切り口の乾燥を防ぐために水中で斜めに切ります。



⑤ 折り留めを作ります。これは、枝を折って安定させ、美しいバランスを打ちつくるいけばなの手法です。



小さな器に1本だけ生けて、極の凛とした表情が、空間に華やかさを添えてくれます。

出来上がりや飾り方に、こうしないといけないということはないので、自分が落ち着く形や、見せたいポイントを目立たせるなどに気を配って、自由に楽しんでみてください。下に重心がくるようにするとバランスをとりやすいです。そもそも、剪定後捨てようと思っていた枝ですので、大胆に生けてこそ！長さや本数、花器を変えるなど、いろいろお試しください。





簡単押し花の作り方

押し花といえば、新聞紙に挟んで重しを乗せて数日〜というイメージですが、アイロンであっという間に作れてしまいます。



① 摘んだ花をクッキングシートに挟む。



② 低温のアイロンを10秒当てる。

しっかり花が乾燥するまで、アイロン→冷ますを繰り返します。シートが割れにくいときはまだ乾燥が足りません。茶色くくすんでしまったり、キレイに乾燥しなかったり、押し花に向かないお花もあります。火傷に注意しながら、お子様と一緒に実験してみるのも楽しいかもしれません。



摘んだ花がらや取り除いた葉も飾ってみよう
フレームに入れば、捨ててしまう花がらや葉っぱも、標本風の可愛い雄貨に。フレッシュでも押し花にしても、お好きな植物でいろいろと試してみてください。

もっと気軽に花を飾ろう!

植物のある住まいは、それだけで住む人の暮らしに対する心配りが滲み出るような印象を受けます。

グリーンを飾る習慣が付いてきたら、そこに彩りを添えたいもの。

吉野町にあるLife style labelのオーナー江口さんにお花の選び方や、長持ちさせるコツなどをお聞きしました。



〈教えてくれた人〉Life style label / 江口 勝さん

吉野公園にほど近い山の中にひっそりと佇む素敵なお花屋さん。店内には色とりどりの切花から、オーナー自ら制作するドライフラワーまで所狭しと並び、まるでお店全体が花束のよう。プーケやアレンジも、好みと予算に応じてセンスよくまとめてくれます。どんな花を選んだらいいか迷ったら、花に対する知識が豊富なオーナーが優しく丁寧にいろいろと教えてくれるので、まずは相談してみてください。
鹿児島市吉野町7164-2 TEL / 099-295-4540 Instagram / @life_style_label



水切りをして長さが短くなってきたら、生け替えてダイニングテーブルに。



まずは長さが生かせる花器に。守扉の花器が生けやすいです。



長持ちのコツは水揚げにあり
枝ものと同じく、水切りして水揚げすることが基本です。①水中で②斜めにスバッと切りましょう。



いくつか並べてみても可愛い。



小さなカップなどに生け替えて洗面スペースに彩りを。



お水は少なく
水に葉っぱが浸からないように必ず取り除きましょう。水の量は茎の先が4cmほど水に浸かるくらいで十分です。毎日水切りをして水を替え、清潔に保ちましょう。



ドライフラワーを飾る時の注意点
最近人気急上昇のドライフラワー。落ち着いた深い風合いがおしゃれで、長持ちするのが魅力ですが、永遠に飾れるわけではありません。湿気に弱いので、多湿を避けて飾りましょう。浴室や洗面、玄関はおすすめしません。また、自然の花を乾燥させているので、カビが生えたり虫がわいたりすること。ダイニングテーブルやキッチンに飾るのやめておきましょう。粉っぽさが出てきたら替え時です。1年を目安に処分して新しいものを飾りましょう。



キッチンに立つ時間も、花があれば気分が上がります。



束ね方
花器に直接生ける際は、まずグリーンを差して、花の大きさの大・中・小の順で生けていくとやりやすいです。花束を束ねていく際は、利き手でない手にどんな花を束ねていきましょう。輪ゴムで束ねると花器の中でバラけることがあります。茎のどれか1本に輪ゴムを通して、2〜3回巻き、最後は1本の茎に下から引っ掛けて固定します。